

音 楽 科

主体的に音楽的な基礎的能力を伸ばし、音楽に対する感性を高める学習指導を目指して

～言語活動の充実による表現の高まり～

関 口 道 子

音楽科では、音楽活動の楽しさを体験することを通して音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てることを目標としている。音楽表現の豊かさや美しさを感じ取る心とともに、表現の技能を伸ばしていくための指導はどうあればよいのかということについて考えていきたい。

I 音楽科における課題学習

音楽活動における主体性

学習指導要領では、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」と規定されている。「音楽に対する感性」とは、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るときの心の働きを意味している。感性を表現に生かすためには、創造力が必要となる。創造力とは、外に向かって現れようとし、自ら働き出す「主体的な立ち向かい」を内包している。音楽科における創造力とは、音楽の美しさを求めようとする心の働きであると同時に、音楽のもつ美しさを主体的に受け止め、それを意欲的に表現しようとする心構えでもある。音楽活動を創造的な活動と解し、「音楽に対する感性」とともに、その過程における「主体的な働き」が大切である。それゆえ、音楽科においては、このような生徒の「主体的な働き」を「表現」にしていくことが、課題学習の重要なねらいとなる。

II 音楽科における言語活動

音楽科における言語活動の充実

学習指導要領では、「言語に関する能力の重視や体験活動の充実」を提言している。音楽は、目に見えない「音」で創り上げていく、いわゆる「音で創造する芸術」

である。よって、どのように感じたか・伝えたいかという感情を可視化していく過程が必要となる。音楽科における言語活動は、感じたことを表現によって伝える過程において、音楽活動の基盤である。鑑賞領域では、音楽科の学習の特質に即して言葉の活用を図る観点から、「言葉で説明する」、「根拠をもって批評する」などして音楽のよさや美しさを味わうこととし、音楽の構造などを根拠として述べつつ、感じ取ったことや考えたことなどを言葉を用いて表す主体的な活動を重視している。表現領域においても、「言葉で説明する」や「イメージを伝え合う」という言語活動の充実を図ることで表現を高めることができる。特に合唱活動では、言葉（歌詞）を音楽によって心情とともに表現するという、音楽科における言語活動の集大成であるともとらえることができる。音楽活動全般を通して、各々がどのように感じ、どのように考え、それをどのように表現したいのか根拠をもって伝える過程は大切であり、〔共通事項〕とも関連させながら充実させていくことは、より豊かな感性を育てる音楽科の課題学習に必要である。

音楽活動の基礎的能力と言語活動

「音楽活動の基礎的な能力」とは、生涯にわたって楽しく豊かな音楽活動ができるためのものとなる能力を意味している。音楽活動を行うためには、音楽に関する用語や記号、楽譜、発声法や器楽の奏法などの知識や技能

が必要となる。学習指導要領では、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること、音楽に関する用語や記号などについて音楽活動を通して理解することを〔共通事項〕として新たに示された。目標やねらいを明確にしながら〔共通事項〕を取り入れた指導により、基礎的な能力を伸ばしていくことがよりいっそう求められる。専門用語について理解し、活用できるようにすることは、音楽科における大切な言語活動の一つである。その際、単にその用語を理解させるだけではなく、雰囲気まで感じとることができるように指導していくことが必要とされる。

音楽科の言語活動を充実させるためには、読譜力や音楽用語等を理解し、活用できるよう指導することが必要である。音楽用語等を使用することで、説明や根拠をもって話すときの共通語となり、その結果、意図や思いを伝えることが可能となる。充実した言語活動を行うことで、感性を育み、よりよい音楽活動につながる。

言語活動実践事例 I

「根拠をもって音楽記号の

ベストニュアンスを考案する」

1 題材名 ア・カペラの響き「埴生の宿」

2 題材について

生徒たちは、歌うことが好きであるが、全員が自信をもって歌うという段階にまではいたっていない。その理由として考えられることの一つに、楽曲全体のハーモニーを美しいと感じたり、味わったりする段階に到達していないということがあげられる。つまり、音程をとることに精一杯となり、楽曲全体のハーモニーを味わい、豊かな混声の響きをつくり上げていくことへの喜びを感じる段階にまでたどりつけないということである。自分のパートの音程を正確にとることはもちろん、全体のハーモニーを感じて歌うということに生徒の関心・意欲を引き出すことは合唱指導においてとても重要なこととなる。また、考えられるもう一つの原因に合唱曲の音楽（楽譜）を奏でるという過程でとどまっている場合がある。合唱の大変な要素の一つである歌詞・言葉に共感する過程にたど

りついたとき初めて、合唱は感動的かつ生き生きとしたものとなる。合唱活動は、言葉（歌詞）を音楽によって心情とともに表現するという点で、音楽科における言語活動の醍醐味である。それゆえ、各々が歌詞の意味をどのように感じ、どのように考え、さらにそれを伝えるためにどのように表現したいのかを考える過程を大切にしていきたい。そのような過程の中から、根拠をもって伝えようとする力をつけていくことができる考える。それゆえ、日頃から鑑賞活動や表現活動において根拠をもって批評したり、思いを伝え合ったりする活動を相互に絡めつつ、自分の思いに自信をもって互いに伝え合う力をつけていくことが重要である。

本題材では、混声四部のア・カペラ合唱に取り組むことで、ハーモニーの美しさやつくり上げる喜びを感じられるようにした。「埴生の宿」は変ホ長調のⅠ度、Ⅳ度、Ⅴ度の和音で構成されている。そこで、ハーモニーを作り上げていく際、楽曲と同じ変ホ長調のカデンツを活動に取り入れることで、調性感を高め、より豊かな響きと美しいハーモニーの追究を目指す。また、「埴生の宿」は、自分のふるさとを愛する心や、素朴で質素なくらしを大切にする気持ちを表した曲であるため、仲間と共に歌詞の内容を理解し、共感し、表現方法を伝え合いながら合唱をつくり上げていくという学びあいの活動がより充実できる。その学び合いを通して、楽曲に対する個の技術面と思いの両面を自ら高めることができるのでないかと考える。そして、この曲を通して深まった思いをこれからそれぞれの生活観においても、少しでも生かしていくことができればと願い、本題材を設定した。

		「埴生の宿」							
		玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや	春の空			
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや
楽しいとも	頼もしや	おお	我が宿よ	花は主	鳥は友	玉の装い	埴生の宿も	我が宿	のどかなりや

3 題材の目標

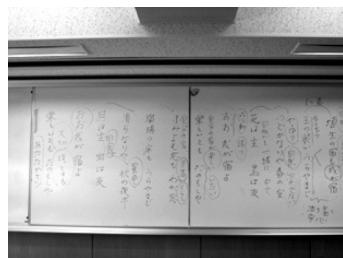
- ・混声四部のハーモニーの美しさを感じて歌うことができる。
- ・歌詞の内容を理解し、表現に生かすことができる。

4 全体計画 (全5時間 本時4/5)

主な学習内容	
1	・パート練習における楽曲の音取りをする。 ・全体合唱で楽曲のハーモニーをつくり上げる。
2	・変ホ長調のカデンツの響きを理解する。 ・楽曲の2部形式、動機と楽曲の構成について理解する。
3	・歌詞を朗読し歌詞に対する理解を深める。 ・歌詞に込められた思いについて学級で話合う。
4	・歌詞に込められた思いを伝えるためにどのように表現したらよいか考える。 ・学級の表現としてどのような表現していくのかを話合う。
5	・カデンツを伴奏として、より豊かな響きを目指して合唱を仕上げる。

◆歌詞の内容理解

「埴生の宿」の歌詞に込められた思いについて話し合い、それを歌詞に書き込み自分たちの思いを確認できるようにまとめた。「いうまでもなく、現代社会は私たちの暮らしも便利で豊かな物資や情報に溢れている。しかし、質素で素朴な暮らしのよさについても、これからは私たちは忘れてはいけない感覚であり、伝えていかなくてはならないのではないだろうか」という意見も出て深まりがみられた。また、「自分の家への愛着とともに、自然や家族を大切にする気持ちも込められているのではないか」という意見も出た。



◆カデンツの理解と和音の機能

「埴生の宿」と同じ変ホ長調のカデンツを練習に取り入れた。カデンツを歌うことでの調性感に高まりが見られた。さらに、和音の機能の学習と関連させることでこれらの機能を、楽曲分析や表現に生かすことができた。

- トニック (T) . . . 安定感。
- ドミナント (D) . . . 緊張感、トニックへの進行で安定。
- サブドミナント (S) . . . 色彩を与え、音楽を豊かにする。

◆音楽記号のベストニュアンスの考察

①個人でのベストニュアンスの考察

まず一人一人が、音楽記号のベストニュアンスを考案する。楽曲の中に出てくる音楽記号を考える前に、速度記号である Andante についても大事な表現要素であると捉え、ニュアンスを考えた。生徒たちは、歌詞の内容理解を生かしながらふさわしい速度記号のニュアンスを考案した。

<Andante: 「ゆっくり歩くような速度」を「埴生の宿」にふさわしいニュアンスに置き換えた生徒の意見>

- ・自分の家にいて心が落ち着くような安心感を表す速度
- ・草原を風を受けながら歩くような速度
- ・誰かに思いを伝え、語り、諭したい速度
- ・生まれ故郷にいるうれしさをかみしめる速度
- ・なつかしさを感じ伝える速度
- ・豊かな自然の中で我が家でゆっくり過ごす速度
- ・家族や我が家、豊かな自然に感謝し、かみしめる速度

②パートでの音楽記号のベストニュアンスの考察

それぞれ個人で考案した音楽記号について各パートで根拠をもって説明し、伝え合う活動を行った。さらに、それぞれのニュアンスを組み合わせたり、話し合いから新たに生み出したりしながら各パートで音楽記号のベストニュアンスを考案した。生徒たちは、前時までに学習した音楽的な要素と歌詞の内容の両方を基に話し合いを進めていた。中には、和音の機能をニュアンスに生かしているパートも見られた。



<各パートで出た音楽記号のベストニュアンス>

③学級全体で、自分たちの音楽記号のベストニュアンスの最終決定

各パートで出た意見をもとに、学級としてはどのニュアンスにするのかを話し合い、決定した。

合唱は、詩（作詞者の思い）と音楽（作曲者の思い）の両方を考えていく必要があり、話合いの際には、その視点を確認しながら進めることに留意した。生徒は、詩と楽曲に関する既習の事項を思い出しながら自分たちの思いについて話し合いを進めることができた。また、いくつかの各パートの意見を組み合わせたり、似た意見を採用したりすることで、学級として皆が納得のいくニュアンスを最終決定した。



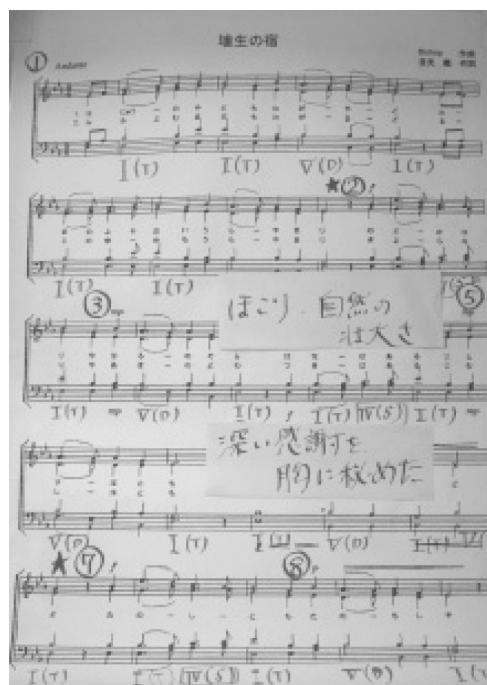
＜クラスで一つにしていく様子＞

＜考察＞

合唱は独唱とは異なり、集団で一つの音楽をつくり上げていく活動であり、全員で思いを共通理解していく過程は大切である。今回の音楽記号のベストニュアンスを考案する活動を通して、各々がその楽曲の世界に入り込むことができ、楽曲に対するイメージをより強いものにすることことができたと感じる。さらに、それらを伝え合い、他の考えや感性を知ることで、互いを認め合いつつも、結果的には、より一層各々の感性をさらに磨くことができ、「学び合う中で自ら学ぶ」姿に近づくことができたのではないかと考える。

また、音楽科では、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を「知覚」し、それらの雰囲気を「感受」する能力を高めることをねらいとしている。音や表現要素を単に感覚器官を通して判別する「知覚」にとどまらず、音や音楽の特質や雰囲気などを感じる「感受」する段階

までに至ったとき、音楽は生き生きとしたものとなる。そのような音楽を奏でているとき、生徒たちはきっと真に音楽が楽しく、表現することが喜びになっているのではないかと考える。本学習を通して、生徒たちは、f（フォルテ：強く）という記号を、単に強く歌うだけでなく、「自然の壮大さ」や「誇り」を伝えたいf（フォルテ：強く）と感受することで、より気持ちの込もった表現に近づいた。また、21小節目のp＜＞の表現では、生徒自身が深い意味が隠されている記号であると感受し、表現したことで、最初の歌い方とは異なり、より気持ちが込められ、なおかつ強弱表現が強調された。



＜最終的にクラスで決めた表現＞

言語活動実践事例Ⅱ 感動を言葉で伝える

「私が見つけた『マイ・オトフウケイ』を言葉で伝えよう」

学習指導要領第4章の2「内容の取り扱いと指導上の配慮事項」の（7）イには「自然音や環境音などについて取り扱い、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりするなど、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫すること」と提言されている。その中で、「自然音や環境音」とは、「風の音、川のせせらぎ、動物の鳴き声、機械の動く音など、生活や社会の中に存在する様々

な音」を指し、「自然音や環境音、さらには、音環境への関心を高めることは、人間にとての音や音楽の存在意義について考えたり、生活や社会におけるよりよい音環境を希求する意識をもったりすることへつながっていく」とある。現代社会は、様々な文化の発展に伴い、音楽もいっそう多様化している。携帯電話の着信メロディーもファッションの一部のように気分によって自由自在に様々な音楽に変えられる。また、個人の演奏がネット上で公開されたり、演奏会に行かなくても沢山の演奏や楽譜がダウンロードできたりする。また、音楽ソフトの発達によって、楽譜の知識がなくても、目的に合った作曲ソフトを用いれば、感覚で即興的に思い浮かんだメロディーを楽譜にすることができます。このように、ライフスタイルの便利さとともに音楽の可能性や使用法も広範囲に広がっている。しかし、このような時代に「古きを見直しつつ、新しいものを」「移りつつあるものと変わらざるものを見極め」が重要になってくる。このことは、自然音との触れ合いにみられるように、音楽そのものにとどまらず、これからの中学生を考えいくうえでとても大切な価値観である。その価値に気付かせることもまた教育の役割ではないかと考える。生徒に「音」を切り口に環境や文化を考えるといった視野をもたせる機会を与えるという願いから、本題材では、「音風景」を鑑賞し、さらに自分の目で実際に身の回りにある「音風景」を探し、それを言葉を用いて伝えるという活動を取り入れた。

1 題材名 自分が見つけた音風景を言葉で伝える

2 題材の目標

- 音や音楽と生活や社会とのかかわりについて考える
ことができる。

- 生活や文化、自然などさまざまな音について言葉で表現
することができる。

3 教材

Homepage : 残したい日本の音風景100選 (環境省)

<http://www-gis2.nies.go.jp/oto/>

Homepage : 音風景 (global work)

<http://www.oto-fukei.jp/>

自作レポート「私が見つけた『マイオトフウケイ』」

4 教材設定の理由

環境省のホームページ「残したい日本の音風景100選」、グローバルワークのホームページ「音風景」はいずれも、日本全国の自然環境音、文化・地場産業が形成する音も含まれ、幅広い視点から「音」を切り口として日本環境を見つめなおすことができる。これらを鑑賞しつつ、生徒自身が実際に目で見て五感を通して感じた音風景レポートを作成させる。その際、「音」の説明と感じたことを言葉で表現することで伝える。また、さらに自分の見つけた音風景に、それぞれの感性でキャッチフレーズをつけるという言語活動も取り入れた。これらの活動を通して、「音」への感性を高め、音楽と生活や社会とのかかわりについて考えるとともに、これからの環境に対する価値観や音楽性に生かすことができると考え、設定した。

◆鑑賞した音風景例

残したい音風景100選 (環境省)	
○福島潟のヒシクイ	(新潟県 新潟市)
○尾山のヒメハルゼミ	(新潟県 糸魚川市)
○称名滝	(富山県 立山町)
○エンナカの水音とおわら風の盆	(富山県 富山市)
○井波の木彫りの音	(富山県 南砺市)
○本多の森の蝉時雨	(石川県 金沢市)
○寺町寺院群の鐘	(石川県 金沢市)
○蓑脇の時水	(福井県 越前市)
音風景 (global work)	
○遠州灘の海鳴・波小僧	(静岡県 浜松市)
○大井川鉄道のSL	(静岡県 島田市)
○飛騨高山の朝市	(岐阜県 高山市)
○安曇野わさび田湧水群	(長野県 安曇野市)
○十日町松代の棚田	(新潟県 十日町市)
○戸隠奥社と参道の杉並木	(長野県 長野市)
○全日本チンドンコンクール	(富山県 富山市)
○高岡駅発車メロディー	(富山県 高岡市)

◆自作レポート「自分が見つけた『マイオトフウケイ』」

私が見つけた「マイ・オトフウケイ」

音風景の名前
野球の応援の音(高校野球)

キャッチフレーズ
この一球にかける夏

県・市・町
富山県

◆概要
これに頂の甲子園出場に向けての予選大会で野球部が応援する吹奏楽部の演奏の音です。選手に精一杯の実力を出し切ってほしいという熱い思いが込められてるので力強く元気の出る音です。

◆選んだ理由
選んだ理由は選手だけでなく、スタンドにいる人達と一緒に。甲子園出場という目標に向かって一生懸命に頑張っている姿がとてもかっこいいと思いました。選手とスタンドにいる人達が一体となり、とき初めて感動や勝利を手に入れることができるのだと思います。私は今年もテレビの画面から甲子園球場からの元気をもらっています。

私が見つけた「マイ・オトフウケイ」

音風景の名前
ラジオ体操の音

キャッチフレーズ
清々しい朝に響く元気な声とラジオの歌

県・市・町
富山県 舟橋村

◆概要
「新しい朝が来たよ」という元気な声で早朝、ラジオ体操が始まります。時々「い、い、い、さん、しゃ」とかわいいかけ声も聞こえます。これは夏休みの風物詩、元気な体操する子供達の声がやがてかな一日の始まりを告げる、毎朝6時半のオトフウケイです。

◆選んだ理由
夏休み限定の特別でありながら毎朝自然に耳に入れる、私にとってのまさに「夏休みのオトフウケイ」です。ラジオ体操そのものには参加していませんが、家から聞こえるこの音に、「気分だけ」ラジオ体操を楽しんでいます。小さい時から親しくしてこのオトフウケイを大切にしたいと思って選びました。

私が見つけた「マイ・オトフウケイ」

音風景の名前
ガラスの器と氷の共演

キャッチフレーズ
夏でも涼しく過ごせます!!

県・市・町
リビング

◆概要
今から160年以上前のことで、現在の奈良市交野者跡附にあたり鶴鳴(ヅバメ)といつて狩をしていました鶴田大中彦皇子が、その都城の地の鶴鳴置大山寺(つるめおきだいさんじ)の御おまほが所蔵していた米菴を発見した。

◆選んだ理由
氷の音は朝の暑さを忘れる風物詩です特に氷同士がふれ合うクラクッという音は気持ちよくとても好きな音です。私はその音が聞きたくて毎日氷に氷を入れています。日常生活でこんなにすばらしい音があるということでも感動しました。これがもいろいろな音を見つけていきます。

私が見つけた「マイ・オトフウケイ」

音風景の名前
げたの音

キャッチフレーズ
温泉街から聞こえるげたの音

県・市・町
兵庫県城崎市

◆概要
兵庫県城崎市には温泉街には浴衣とけた。この2セットを身につけていく、という風習があります。この写真は温泉街でも人気入浴料の物産店です。みんながよく伝わるように写しました。

◆選んだ理由
とても昔ながらの伝統が残っていて良いなと思ったので選びました。また、けたの音が心の中まで響くものがありました。(マイ・オトフウケイだけ)昔ながらの景観を残していくね!!なと思いました。

＜考察＞

生徒は、全国に様々な音風景があることを知り、興味をもって鑑賞していた。また、音風景には、自然の音だけでなく、私たち人間が生み出す文化や地域に根付いた貴重な音（文化や生活）があることを再認識することができた。また、実際に、「自分で見つける」という活動を通して、地域や自然、文化、生活を今までと違う視点で見直し、私たちの身の回りには、様々な音風景があることを再発見することができ、その魅力を感じることができたのではないかと思う。「音風景」を言語によって伝える、「感動」を言葉で伝える、自分の見つけた音風景に「キャッチフレーズ」をつけるという言語活動を効果的に取り入れることで、イメージを言葉で相手に伝える経験をさせることができた。そのことにより、どの作品も、個性溢れるレポート作品となった。この経験をこれからのおもてなしの音楽表現のみならず、生活観に生かしてほしいと思う。

言語活動実践事例Ⅲ

イメージを言葉で伝え合いながら音楽を創作する

「郷土で生まれた楽器『お鈴』で学校のシグナルソングをつくろう！」

1 題材名 生活に生かす音楽創作

～「お鈴」を使って学校のシグナルソングをつくろう～

【A表現（3）創作】

イ 表現したいイメージをもつとともに、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

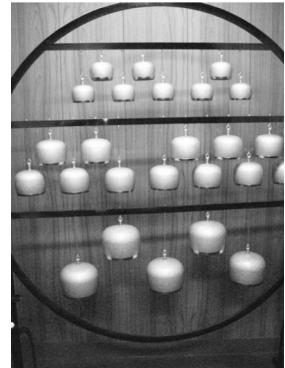
〔共通事項〕 音色、リズム、速度、旋律、構成など

2 題材の目標

- ・生活に生かせる音楽に対して自分の表現したいイメージをもち、それを伝え合いながら、意欲的に創作活動を行う。
- ・楽器の音色の特徴や旋律が醸し出す雰囲気を感受し、音を音楽へと構成する。

3 題材について

創作活動においては、自分のイメージを音や旋律で表現し、伝える活動を通して感性がより高まると考える。そこで本題材では、音素材の特徴を感受しつつ、自分たちのテーマに合う旋律をイメージし、言語活動を充実させながら、形式や構成を理解して音楽をつくらせたい。ここで扱う「シグナルソング」とは、単なる合図ではなく、生徒たちの心情面にも訴えるメロディーを意味する。自分たちの学校生活にふさわしい音楽創作に取り組ませることを通して、生徒の創作意欲を高め、自分たちのつくった音楽が生活に生きる喜びを体験させたい。また、本題材では、高岡市の銅器で作られた「お鈴」という、郷土の伝統技術から生まれた楽器を用いる。



「お鈴」は深い響きに癒し効果があるとされ、高岡市の駅発車メロディーや市内の小中学校のチャイムに採用されたり、様々な音楽との共演も試みられたりするなど、その名を広めつつある楽器である。これらの音楽活動を通して、富山県の歴史と音楽のつながりを知り、郷土とのかかわりについても学ぶ機会をもたせたい。

本題材で用いる「お鈴」は、大きさや厚さの違いで音階をつくった37個の鈴を逆さにつるした楽器で、現在、富山県高岡市のみで生産されており、全国でも一台しかない貴重なものである。そのため、授業の導入では、まず、3音のミニチュアの「お鈴」を用いて音色の特徴を感じ取らせることからはじめる。次に、生徒の即興的な表現を、効率的に具体化した楽譜（音楽）にするためにコンピュータを補助として活用し、イメージを旋律にする。そして、作品の仕上げの段階で、実際に「お鈴」という楽器に触れる演奏活動を通して、楽器の音色を感じ取りながら旋律を創作する。その際、楽器の音色のイメージと生徒相互の意見交換によって試行錯誤を繰り返し、さらによりよいものに練り上げていくという一連の過程を積み重ねていく。このように、表現や鑑賞の体験と話し合う活動を充実させながら、上述の一連の「イメージ

を音楽にしていく」創作活動に取り組むことは、音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うことにつながると考えている。

4 全体計画

第1時	・お鈴の楽器の歴史と音色の特徴について学習する。
第2時	・8人グループで話し合いをして、一つのテーマを考える。ペアで曲のイメージを伝え合い、それぞれコンピュータでモチーフを考え、楽節にし、それらを、組み合わせて1曲にする。<三部形式にする。>
第3時	・各班の中間作品発表会を行い、作品について、それぞれの作品のよさや修正点を話し合いながら、よりよいものに練り上げるための視点をもつ。
第4時	・各班の作品に対する意見をもとに実際に「お鈴」で演奏してみることを通して、楽器の音色の特徴をより生かし、自分たちのテーマに合った旋律にする。

◆シグナルソングを作る過程

中学校学習指導要領解説音楽編では、音楽科の主な改訂の要点の一つに「創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視する」と示されている。本題材では、「楽器の音色と旋律が醸し出す雰囲気」を感受しながらよりよい旋律にしていくことをねらいの中心としているため、ある程度の形式による制限を加えることでの活動を充実させたいと考える。そこで、創作の過程としては、各クラス班ごとに、シグナルソングとしてふさわしいテーマを話し合う。その際、より具体的なイメージのもてるテーマになるよう話し合って決定する。次に、一人一人が班で決めたテーマに合った動機をもとに楽節をつくり、それを受けてペアで三部形式の曲にしていく(4分の4拍子、ハ長調12小節)。三部形式を上手く取り入れることで、それぞれのイメージした旋律が音楽的に生かされた楽曲になる。効率的・音楽的にそれぞれの旋律をつなぎ合わせる。そのことにより、次の段階である、実際に演奏してみて、楽器の音色と自分たちのイメージ

に合ったさらによりよい音楽を追究していく「練り上げながら仕上げていく」という過程を充実させることができる。同じテーマに向かってそれぞれが旋律をイメージし、そのイメージを伝え合う活動を通してコラージュにしていくことで、個々の思いが生かされた1曲を完成させる喜びを味わわせる。



<それぞれのイメージをPCで旋律にする過程>

◆シグナルソングテーマ例

◇滝	◇自由の音色
◇落ち着き	◇虹
◇せせらぎ	◇感動
◇集中	◇現実
◇空	◇春の匂い
◇爽快効果	◇壮大かつ美しく
◇やすらぎ～日々の生活より～	
◇スマイルるるのる♪	◇Friends ~Natural Smile~

◆実際に楽器に触れながら、よりよい作品に仕上げる

各班ごとに、実際に「お鈴」を演奏しながら、自分たちの創ったシグナルソングを、楽器の音色の特徴を生かした表現にするにはどうしたらよいかを、リズム、速度、強弱、構成の視点から見直した。班ごとに、練り上げタイム、演奏確認タイム、リハーサルタイムのタイムテーブルに従って進めた。各班、「お鈴」の特有の残響や音質を感じ取り、その特徴を生かした曲に仕上げ、移動掲示板に貼った拡大された楽譜にそれぞれ修正点を書き加えていった。終末には、代表の班の鑑賞をし、どのように変容したかを話し合い深めた。代表班の修正後の変容について「楽器の音色の特徴」と「テーマの特徴」に対してどのように変化が感じられたかを共有した。



＜練り上げタイム＞



＜話合ったことを楽譜に書き込んでいる様子＞



＜演奏確認タイム＞

＜考察＞

今回「お鈴」という郷土で生まれた楽器を実際に用いたことで、生徒の興味・関心を引き出すことができた。さらに、創作の段階で、コンピュータを用いたことによって、生徒一人一人のイメージを引き出すとともに、効率的に楽譜にすることができた。そのことにより実際に使う楽器「お鈴」の音色とテーマを感受しながら、話しを通して、よりよいものに仕上げていく段階を充実させることができた。また、作品を、一人ずつではなく、はり合わせてつなげるコラージュにしたために、皆で創り

上げ、さらに話し合いを通して、よりよいものにしていく過程を生み出すことができた。課題としては、コンピュータの操作上の指導・管理、情報モラルの問題がある。便利であるが、多くの情報から、選んで活用していく力を身につけさせる指導を心がけることが大切である。創作のまとめ、終末について楽譜にし、製本するのか、CDにするのかということについては 時代に合った生かし方をするということを考えていく必要がある。私たちの生活に生かす音楽という趣旨から、今回は、全校生徒に自分たちの作品集をCDにして配布した。自分たちが創作した作品が残される喜びを感じるとともに、音楽の活用の多様性についてそれぞれが考えるきっかけになればと思う。そして、生涯にわたって音楽を愛好したり、時代に応じた活用をしたりする姿勢を大切にしていってほしいと願う。



＜生徒作品シグナルソング集CD＞

◆シグナルソング生徒作品

ヒューマネイチャー

爽上効果

音楽科学習指導案

3年3組 男子22名 女子17名 計39名

指導者 関口道子

1 題材名 混声合唱曲「生きる」～言語活動の工夫による効果的な振り返り～

〔共通事項〕 旋律、テクスチュア、強弱、構成など

2 題材について

学習指導要領において、第2学年及び第3学年の歌唱活動：A表現（1）ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」と提言されている。音楽科の言語活動は、音によるコミュニケーションを一層充実させるために行われる。音楽は、音そのものが言語のようなものであり、言葉以上の感情をも表現することができる。そのような視点からも、音楽科では、合唱活動を表現領域の中でもとても重要な活動としてとらえている。それは、詩と音楽が密接に結びついた作品のもつ美しさを追究することによって、音楽性の伸長を図ることができるとともに、豊かな感性をはぐくむことができると考えるからである。よって、合唱活動を充実させることは言語活動そのものともいえる。合唱活動そのものが言語活動であると捉えることができるが、音楽科では、その創り上げていく過程で、各々の感じていることを言葉で伝え合う活動が大変重要な過程である。なぜなら、合唱は、一人ではなく、仲間と共に、イメージを創り上げていく活動であるからである。合唱活動では、創り上げていく過程が重要である。そこで、本題材では、よりよい合唱を創り上げていくために、効果的に言語活動を取り入れ、各々の思いやイメージを伝え合い、どのような表現が自分たちの合唱に必要であるかということを追究しながら、合唱を創り上げる過程を充実させていきたいと考える。

本題材では、谷川俊太郎作詞・大熊崇子作曲の「生きる」を合唱曲として選んだ。この合唱曲は、東日本大震災の被災地の復興を願って作られ、2011年6月に完成した曲である。「生きる」は、自然や身近なものの美しさ、人間の感情や、生命など私たちが生きることに「勇気」や「希望」を与えてくれる詩でもある。そしてまた、人間であることの喜びを再確認させてくれる詩である。こうしたメッセージのある合唱曲に取り組んでいくことで、「言葉のもつ力と音楽のもつ力の融合」にチャレンジすることができる。また同時に、進路決定の大切な時期である三年生に少しでもこの曲に取り組むことで、勇気をもって前進していく心の支えにもなればと思い、設定した。本題材では、歌詞の読み取りと、楽譜からの読み取りとの両方の活動を大切にしていくことで、作詞者の思いと、作曲者の思いを考え、感じ取り、伝えるという過程をより充実させていきたい。

また、本校では、毎年秋に、校内合唱コンクールが開催される。その際には、自分たちで、表現したいイメージを追究しながら技術を向上させていくこととなる。さらに、合唱コンクール当日の審査員は、各クラスの代表の生徒審査員も含まれる。このような生徒主体の合唱行事との連携を密にしていくことで、より音楽性の伸長を図ることができるのでないかと考えた。そこで、本題材では、校内合唱コンクールの審査項目も踏まえ、生徒によりよい合唱づくりの具体的な観点から自分たちの合唱を評価する力をつけさせたい。そのことにより、生徒全員が、よりよい合唱を創り上げていく際の視点と見通しをもって、お互いに自分のイメージを伝えることができ、そのことにより、その後の充実した合唱活動につながっていくと思われる。本題材を通して、言語活動である合唱活動に、効果的に皆の思いを反映させていくための言語活動を取り入れることによって、よりよい合唱を創り上げていく喜びを体験するとともに、今後の生徒主体の合唱活動にも生かしていってほしいと願う。

3 題材の目標

- ・歌詞の内容を味わい、混声合唱のハーモニーの美しさを感じて歌うことができる。
- ・自分たちの合唱を観点別に講評し合い、よりよい表現に生かすことができる。

4 全体計画（全5時間 本時4/5）

主な学習内容	
1	・パート練習における楽曲の音取りをする。 ・より豊かな響きのある発声を目指す。
2	・歌詞を朗読し歌詞に対する理解を深める。 ・歌詞に込められた思いについて学級で話合う。
3	・全体合唱で楽曲のハーモニーを作り上げる。 ・楽曲に合わせた曲想を考え、追究する。
4	・自分たちの合唱に足りないものは何かを考え、話し合う。 ・学級の表現としてどのような表現にしていくのかを話し合う。
5	・自分たちの合唱をビデオに収録し、鑑賞する。

5 本時の学習

（1）目標

- ・自分たちの合唱に対して、各観点別に振り返り、個々の思いを効果的に出し合い、学級で共有することでよりよい合唱に仕上げていくことができる。

（2）ねらいに迫るために充実させたい言語活動

- ・歌詞から読み取れる思いを、自分の伝えたい思いとして、言葉で表す。
- ・自分たちの合唱について、全員が視点と根拠をもって自分の言葉で講評し、それを伝え合うことで、より個々の思いが生かされた合唱活動につなげる。

（3）展開

学習内容	生徒の活動	指導上の留意点
◇発声練習	・発声練習を行う。	・心地よく歌える雰囲気を大切にする。 ・前時の学習を想起させるとともに、合唱作りに対する課題をもたせたい。
◆課題の設定 ◇朗読	・「生きる」を気持ちを込めて、朗読する。	・歌詞の内容を感じ取りながら、それを伝えようとする意識をもたせる。 ・言葉のみで詩の情景を伝えることを意識して取り組ませる。
◇全体合唱	・一度「生きる」を合唱し、課題を見出す。	・合唱を録音し、振り返りの際に用いるよう設置する。
より豊かな表現にしていくには、どのようにしたらようだろか ～審査員になったつもりで、自分たちの合唱を評価しよう～		

<p>◆課題の追究</p> <p>◇個人での振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・録音した合唱を、表情も含めて鑑賞する。 ・個人で、気付いたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音のみの情報だけで音に集中して聴かせることで具体的な意見にしていく。 ・効果的に意見を出し合うために、各々が気付いたことを項目別に色別の付箋カードに書く。 <p>【観察、ワークシート】</p> <div data-bbox="1033 534 1383 653" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 黄カード・・・技術面 青カード・・・表現面 </div>
<p>◇各パート別振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートで、観点別の各項目に対して意見を出していく。 <p style="margin-left: 2em;"><技術面></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ハーモニー ○発声 ○発語 <p style="margin-left: 2em;"><表現面></p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉のニュアンス ○強弱 ○速度変化 ○表情 <p style="margin-left: 2em;"><態度面></p> <ul style="list-style-type: none"> ○まとまり・一体感 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で講評する活動を通して、表現の追究をさせたい。 ・各自の意見をもとに根拠をもって言葉で伝え合う雰囲気を大切にする。 ・少数の意見にも耳を傾け、尊重する姿勢を大切にする。 ・歌詞のワークシートも参考にさせながら、「生きる」の情景や思いを伝えるためにはどのような表現方法があるかを考えを深めさせたい。 ・自分の思いを根拠をもって伝えようとして、より楽曲に対する表現への思いが高まるようにする。 ・各パートで出た意見を、一つにまとめることで各パートの意見をより明確にしていく。 ・学級では、どのような表現についていくと、より皆の思いが反映されるのかを追究していく。 ・各々の楽曲に対する思いやイメージを大切にしながら、全体で表現を作り上げられるようにしていくことで次時への授業へつなげ、さらなる高まりを目指す。
<p>◇学級全体での振り返り</p> <p>◆課題の定着</p> <p>◇全体合唱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パートごとにまとまった意見を発表する。 ・学級全体で共有することで、皆で創り上げていく視点を確認する。 <p>・学級での話し合いが表現に生かされていることを意識して合唱する。</p>	

生きる

谷川俊太郎

生きているということ
いま生きているということ

生きているということ
いま生きているということ

いま遠くで犬が吠えるということ
いま地球が廻っているということ

それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふつと或るメロディを思い出すということ
くしゃみをすること

いまどこかで産声があがるということ
いまどこかで兵士が傷つくということ
いまさらんこがゆれているということ
いまいまが過ぎてゆくこと

あなたと手をつなぐこと

生きているということ
いま生きているということ
鳥ははばたくということ
海はとどろくということ
かたつむりははうということ
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ

生きているということ

いま生きているということ
それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものに出会うということ

そして
かくされた悪を注意深くこぼむこと

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ

生きているということ
いま生きているということ

泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

